

家庭教育支援フォーラム②<11月1日(金)>

子どもと接するキーワードは「通じ合い」



山形県庄内児童相談所の地域指導主幹(兼)次長(兼)児童福祉司の中島貴史氏を講師にお招きし、「気になるあの子にわたしができること～児童相談所からのヒント～」と題して、標記研修会を開催しました。気になる子どもたちへのアプローチについて、「気になる」とはどういうことなのか、どんな視点で子どもたちを見てアプローチしていけばよいのか詳しくお話いただきました。子どもの行動には必ず原因やきっかけがあるので常識にとらわれずに探ることが大切であること、一人ひとりの育ちを理解することの大切さなど、目の前の子どもをよく見て理解することの大切さを学びました。中島先生の豊富な経験に裏打ちされたエピソードを交えたお話は、参加者の皆さんがこれから子どもや保護者に関わっていく上での大きなヒントとなりました。(担当:齋藤)



かけがあるので常識にとらわれずに探ることが大切であること、一人ひとりの育ちを理解することの大切さなど、目の前の子どもをよく見て理解することの大切さを学びました。中島先生の豊富な経験に裏打ちされたエピソードを交えたお話は、参加者の皆さんがこれから子どもや保護者に関わっていく上での大きなヒントとなりました。(担当:齋藤)

放課後子ども指導者研修会③<11月21日(木)>

まずは聴いて理解し、子どもたちをサポート！



「発達に特性のある子どもへの理解と支援～だれもが過ごしやすい居場所にするために～」と題して、標記研修会を開催しました。約120名の放課後子ども教室や放課後学童クラブ、行政職員等の皆さんから参加していただきました。講師の黒澤 哲(くろさわ あきら)氏は、NPO 法人「自閉症ピアリンクセンターここねっと」の常務理事を務め、仙台市自閉症児者相談センター長としても活躍されています。

講演では、子どもの発達や子どもと関わる際の考え方、気になる行動への対応の仕方、子どもとの関係づくり等のお話をいただきました。どれも実践につながるお話ばかりでした。

講演の最後には、事前に寄せられた参加者からの質問に対して、丁寧に答えていただき、とても参考になりました。大切なのは、子どもたちの話をまず聴き、特性を理解し、向き合うこと。時間と労力をかけながら子どもたちの成長をサポートしていくのが、子どもたちと関わる人たちの仕事であることを学びました。参加者からの感想を紹介します。

○子どもに「事前に」伝えるということを大事にしていきたい。
○日々関わる子どもたちの「できること・できないこと」を把握し、できる範囲で環境作りや言葉かけ等を改善していきたい。
○子どもに「合意(提案に同意する)を教える」ことが一番印象に残った。子どもに寄り添い、話し合いながら子ども自身に自己決定を促したい。(担当:高橋)



地域とともにある学校づくり研修会(兼)社会教育主事有資格教員等研修会②<11月21日(木)>

学校と地域が思いを共有し、共に一歩前へ！

鶴岡市立朝陽第一小学校校長の小澤敏一氏を事例発表者に招き、「地域とともにある朝一小づくり・朝一小を核とした地域づくり」という内容で事例発表をしていただきました。その中で「朝一小教育サポーター(通称:いちサポ)」の取り組みの紹介がありました。「いちサポ」とは、学校に入り、教育活動をサポートする地域の方々のことです。ベルマーク整理やミシンの授業のサポート、休み時間の見守り等を行っています。学校や子どもたちのためにサポートをしたいという地域の方々を大切にしていることが伝わりました。

事例発表後のワークショップでは、朝陽第一小学校の取組みについての感想を伝え合った後、自分の立場で感じていることや考えていることを共有しました。学校と地域が連携・協働して子どもたちの成長を支えるために、自分ができることを考える機会となりました。

地域とともにある学校づくりを具体化するには、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進することが大切です。今後も、庄内教育事務所社会教育課では、出前講座を実施したり、関係する情報を発信したりして、庄内地区の「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」が一歩前に進んでいくよう、サポートしていきます。最後に、参加者の感想を紹介します。

○たくさんの地域の方が楽しく来校して活動しているのが素敵だと思った。

○学校運営協議会の活動内容や熟議のテーマ、委員の選び方などについて、たくさんのヒントをもらった。

○地域とともにある学校づくりを、今後さらに推進・充実していきたい。そのために、まずはそのよさを地域・教職員と共有していくことが大切だ。(担当:高橋)



山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会<11月17日(日)>

スポーツ少年団のさらなる発展のために～魅力ある団活動を目指して～

新庄市民プラザで標記研修会が開催されました。研修会の前に令和6年度日本スポーツ少年団顕彰伝達式及び山形県スポーツ少年団表彰式が行われ庄内地区から4名の方が受賞しました。

○日本スポーツ少年団顕彰:齋藤雅志氏(庄内町)

○山形県スポーツ少年団顕彰:原田満氏(鶴岡市)、芝田年雄氏(三川町)、清水和久氏(酒田市)

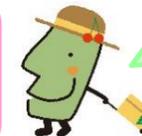
研修会の前半は、せりかわ整骨院の芹川武志院長から「試合で全力を出し切るための毎日のコンディショニングと近年のスポーツ指導法」について講演していただきました。ケガの原因は筋肉の硬さにあり、痛みが出るのは運動とケアのバランスで決まるため、ケアする量が運動量とストレス量合計を上回ることが大切なことを学ぶことができました。

後半は神奈川衛生学園専門学校東洋医療総合学科教員の内田真弘氏から「呼吸と姿勢から考えるやる気スイッチとは?～成長期に身に付けておきたい呼吸と姿勢～」について講演していただきました。快・不快の原則があり、自律神経の状態によって認知も変わることを学びました。

来年度は庄内地区(鶴岡市)での開催となるため、指導者や育成母集団(保護者等)に有益な研修を検討し、多くの方々に参加してもらいたいです。(担当:志田)



庄内教育事務所 社会教育課
【公式】Instagram
各種研修会、事業等の情報をお届けします！



庄内地区社会教育情報
ホームページはこちら！➡

